



## タイのChinese New Year

北陸銀行 国際部  
バンコク駐在員事務所  
所長 湧川 裕明

### 1. はじめに

1月21日から中国の旧正月である春節が始まりました。タイでも「Happy Chinese New Year」と書かれた飾りを、街のそこかしこに見ることができます。今年の春節は、中国が海外渡航制限を解除した後ということもあり、観光が重要産業であるタイでも中国人旅行客を取り込もうとする動きが見られます。当地での現状を報告したいと思います。



【ヤワラート通り(中華街)の春節イベント会場の様子】

### 2. タイの華僑社会

1月23日付「バンコクポスト」の1面には、Chinese New Yearを祝う儀式を行う国王ラーマ10世夫妻の写真が大きく掲載されています。国民の約95%が仏教徒であるタイにおいて国民的な正月行事という仏歴の正月に当たる4月中旬に行われる「ソンクラン」という水かけ祭りが有名ですが、華僑の人たちもタイ社会に深く根差しています。

総人口約6,700万人のタイで、華僑は751万人(約1割強)を占め、企業経営者には華僑系が多いと言われています。ちなみに、華僑の中では、広東省の潮州市にルーツを持つ人が約6割と言われています。タイ最大手の銀行バンコック銀行やセブンイレブンを運営するタイ最大の企業グループのCPグループは潮州系の企業です。

ある日系運送会社の方から教えていただきましたが、中国旧正月の大晦日に当たる1月21日には社員全員で安全祈願のお参りを行い、社員には一人100バーツ(約390円)のお年玉を渡したそうです。

### 3. 旧正月と観光産業

1月21日にバンコク最大の中華街「ヤワラート通り」を訪問しました。ニューイヤーイベントの会場を設営する作業中でしたが、旧正月の大晦日に当たる日なので、すでに春節を祝う赤い衣服を着た人たちでごったがえしていました。また、街中のショッピングモールも赤を基調とした飾りつけを施し、クリスマスから正月にかけた装飾に劣らず、

購買意欲を刺激しようとしている感じがします。



写真左：春節を祝うショッピングモールの飾りつけ



写真右：ワットマンコーン(1871年建立。バンコクで最も古く有名な中華系寺院)の内部と参拝者

中国人の人気海外旅行先について、沢山のアンケート結果がネットで見られますが、大抵のサイトでは日本、タイは常に1位か2位にランクされています。中国政府が海外渡航を解禁した今年の春節はどうかと言うと、日本へ行きたい中国人でも、旅行先がタイなどの東南アジアに流れている状況があると言えるのではないのでしょうか。背景には、日本が中国からの入国時のPCR検査等の水際措置を定めていたり、中国が日本へのビザ取得に関しての厳しい所得制限を設けていたりする(中国の旅行代理店経由での申請しか認められておらず、限られた富裕層にしかビザが下りない)といったことがあると考えられます。タイは中国本土からの入国者に対して水際対策は実施していなく、ビザ取得も日本と比較すれば容易です。

1月23日現在の情報ですが、中国政府はタイへの団体観光客の渡航解禁を示唆したとのタイ政府の発表がありました(第一弾：他の19か国と合わせて2月6日より実施)。中国からの渡航者に対して水際措置をとっている日本、アメリカ、韓国などは対象外とされており、渡航制限の格差が変わらない限り、短期的には中国人観光客の需要取り込みは、タイの優位性が続くのではないかと予想します。

#### 4. おわりに

中国のみならず、シンガポールやベトナムでも春節は祝日となり、企業活動が一時的にストップします。タイは祝日にこそなりません、華僑文化が社会に浸透しており、街中で春節を祝うムードが感じられます。中国人観光客のインバウンドも戻りつつあり、コロナ前の状況に近づいているのではないかと感じます。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内)  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp